

# 43 トヨタ名古屋自動車大学校

Toyota Technical College Nagoya

TTCN-F

TTCN-F

<http://ttcnf.webcrow.jp/>

## 第13回大会総括



### 今回の総合結果・部門賞

- 総合14位 ●日本自動車工業協会会長賞
- ジャンプアップ賞1位

### Profile チーム紹介・今までの活動

TTCN-Fでは第6回大会から参戦し、本年度で8度目の挑戦となります。本年度もEVとのダブルエントリーも継続しています。昨年度は、結果としてエンデュランスにおいて完走することができなかったため、今年は全審査の完走と、過去最高順位の23位を更新するために活動してきました。

### Team-member チームメンバー

#### 干場 匠 (CP)

早川 哲也 (FA)  
秋山 悠貴、石田 敦志、今村 琢也、大浦 将貴、加藤 昭文、神谷 涼介、清田 恵嗣、柴山 泰輝、佐野 友洋、鈴木 健悟、田川 昌英、竹本 幸伸、谷口 央宙、田端 景虎、玉城 大二郎、近田 悠矢、中井 冠太、花弁禮 翔太、原田 祐樹、萩原 充、平賀 孝紀、廣田 翔也、堀 寛貴、堀江 香志、森本 亮太、成田 高大、根本 健司、松井 和、南 義人

## Presentation

### プレゼンテーション

本年度マシンは、昨年度からの車両をベースとし、更に“コーナリング速度の向上”と“信頼性の向上”をめざしました。それらを達成するため、マシンに各種センサーを取り付けました。エンジンでは、低速トルクの確保と最高出力の向上を図りました。

エンジンベンチにて、排気管にA/Fセンサーを取り付けることで、全域で適正な空燃比にセットしました。また、信頼性は冷却系の見直しや、昨年度破損したレギュレーターをMOSFETのものに変更することで向上させました。

フレームは、過剰強度だった昨年度をベースにトラスの削減を行なうことで安全率は確保しつつ、軽量化を行いました。

サスペンションでは当校の特色と言えるトーションバースプリングを使用したアンユナイトサスペンションを引き続き採用しました。昨年度ではセッティングを煮詰めきれなかったこともあり、容易にセッティングを決定するため、ステアリング舵角センサー、ヨーレートセンサーやダンパーのストロークセンサーを取り付けました。そして、車両の挙動を把握することでコーナー進入時の挙動、コーナリング時の姿勢やコーナー脱出時の動きを狙ったものにでき、コーナリング速度の向上を図ることができました。このような取り組みで、過去最高の出来といえる“TTCN-F15”で本大会を挑みました。

## Participation report

### 参戦レポート

毎年チームメンバー全員が入替わる状況の中、本年度も手探りの中進めていきました。今年度は、例年遅いシェイクダウンをなるべく早期に行なうため、昨年度マシンを正統進化させました。目標としていた3月には間に合いませんでしたが、5月頭にシェイクダウンさせることができ、5月に新マシンで試走会に参加できました。それから7月や8月と独自に走行トレーニングも行なうことで、マシンの熟成とドライバーの育成を図ることができました。

大会では、事前車検を受けられずに2日目早くから受けましたが通過せず、3日目ようやく通過できました。そのため、3日目の動的審査では1ドライバー2ヒートの後半組になってしまいました。更に、雨の影響のため、オートクロスでは走行できず、一時ははどうかと思いましたが、エンデュランス走行は可能となりました。

4日目のエンデュランスでは、走行直前にバッテリーが壊れてしまうハプニングに遭いながらも直前に交換して出走し、ドライバー2人も危なげない走りでも無事完走することができました。

無事、全審査をやり遂げ「ジャンプアップ賞1位」「日本自動車工業協会会長賞（完走奨励賞）」を獲得し、結果は過去最高順位である14位を獲得することができました。

最後になりますが、支援をいただいたスポンサー様各位、そして本大会に駆けつけてくれたOBの方々最後まで最も近いところで応援していただいた学校関係者の方々に厚く御礼申し上げます。ありがとうございます。

## Sponsors スポンサーリスト

ヤマハ発動機、日本グッドイヤー、タクティ、和光ケミカル、愛知、イワタクソー、ウエストレーシングカーズ、NTN、F.C.C.、共和工業、新明工業、関谷醸造、ソリッドワークス・ジャパン、大仙産業、ダッド、トヨタカラー愛知、豊田合成、深井製作所

**Team-Movie** <http://www.jsae.or.jp/formula/jp/13th/movie/43.html>